

令和3年度 学校自己評価システムシート (県立久喜高等学校 定時制)

e03

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	個に目を向け、基礎学力の充実を図り、生徒全員の進級・卒業・進路希望を実現できる学校
重点目標	1 生徒の授業参画意識を高め、一人一人に応じた学びを支援し、基礎学力の向上を図る。 2 健やかな心身の育成を図り、将来の生き方を考えさせ、希望進路の実現を図る。 3 学校情報を積極的に発信し、地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を推進する。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	3名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 (1月24日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施 令和4年2月28日
								学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 落ち着いた環境の中で授業が行うことができ、生徒の授業態度も良好である。しかし、学習の振り返りが必要な生徒や学習習慣が身につけていない生徒、不登校傾向の生徒、日本語が母国語でないため日本語の理解力が不足している生徒等がいる。 【課題】 個々の生徒が抱える課題の解決に向けて、効果的・継続的な支援を、全教職員の共通理解の下で行う必要がある。	○学習習慣等の確立を目指した生徒支援体制の充実。新学習指導要領を見据えた取組み。 ○個々の生徒の課題を把握して個に応じた課題解決のための取組を推進	①生徒の学習習慣の確立や、基礎学力の向上を目指した指導法を引き続き検討し実践する。 ②主体的、対話的な深い学びを引き出す授業の取組や、観点別評価など評価方法について引き続き検討する。 ①ソーシャルスキルトレーニングを指導計画に位置付ける。また自立支援事業を効果的に行うなど、質の高い支援を行う。 ②スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの専門性を生かし、相談窓口の充実を図るとともに、教職員のスキルアップを図る。	①成績優良者数増加や成績不振者数減少が実現できたか(昨年度、成績優良者24%、欠点保有者3人)。 ②生徒アンケートで、授業改善に積極的に取り組んでいるとの回答割合が多かったか。(昨年度97%) ①各事業を着実に実施することで、個に応じた課題を解決できたか。退学者が減ったか(昨年度1名)。 ②生徒アンケートで、相談・支援等の体制が整っていると回答した割合が多かったか。(昨年度87.9%)	新学習指導要領を見据えて、授業改善に取り組んでいる最中であり、まだ効果は表れていない。 ①2学期の成績優良者は15%と昨年度に比べて減少した。欠点保有者は、3人と変化が無かった。 ②生徒アンケートで授業改善に取り組んでいるとの回答が89.7%とやや低かった。 各事業は着実に実施できた。相談・支援体制も充実してきている。 ①1年生の退学者が昨年度と比べ増加した。(4名) ②生徒アンケートで、相談・支援体制が整っていると回答は82.7%であった。80%以上の生徒が認知している。	B	次年度を見据えて、観点別評価方法や、主体的・対話的な深い学びについて検討から実践へと移行する。混乱なきよう移行できるようにしたい。在校生に関しても、引き続き、授業改善や成績優良者の増加に努めたい。 1年生の中学校から継続しての不登校者が多く結果、退学者が増加した。支援は手厚く行えたと思うが、行き届かなかった感はある。SCやSSWの活用や相談体制の見直しを図る。	・興味関心を引き出す授業、知識・理解力を高める学習や、生徒同士で学び合う授業など、主体的、対話的な学習活動に引き続き取り組んでほしい。 ・個人差がかなりあるのではないかと推察するが、引き続き授業改善に取り組んでほしい。 ・コロナ禍ではあるが、引き続き生徒たちの学力向上を目指してほしい。 ・高校で再出発をと、頑張る生徒に対して、先生方は丁寧寄り添っていただいている。行事や部活動を通して充実感、達成感、仲間とのつながりなど味わえる場面は大変有意義である。 ・各生徒に応じた相談体制で、自立支援につなげてほしい。 ・SC、SSWの専門的な方々に相談できる体制は、保護者にとっても安心できる。
2	【現状】 生徒の問題行動は少なく落ち着いた環境にある。また、計画に基づいた進路指導も成果が出ている。 【課題】 毎年、多様な生徒が入学しているため、教員間で共通理解に基づいた組織的な生徒指導が必要である。 卒業時の進路未決定者ゼロ、特に就職希望者は正社員での決定を目指した指導が今後も必要である。	○共通理解に基づく組織的・継続的な生徒指導の推進と生徒支援体制の充実 ○個に応じた進路実現を目指すため、組織的・計画的な進路指導の取組の推進	①早い段階での面談を実施し、生徒の諸問題の把握や問題行動の早期発見と未然防止を強化する。 ②生徒指導部を中心とした、交通安全指導や非行防止指導に努める。 ①進路行事を計画的に実施し、進路講演会や就労体験を効果的に行う。 ②スクールソーシャルワーカーの支援も得て手厚い進路指導を行うことで、生徒の進路指導を実現させる。	①生徒アンケートで、基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを守る態度を育てることに努めていると回答した割合が多かったか。(昨年度91.9%) ②軽微なものを含め生徒指導件数が少なかったか。(昨年度1件) ①生徒アンケートで「進路について考えるようになった」が増加したか(昨年度75.7%) ②卒業時に進路希望を実現できたか。	教職員の共通理解のもと組織的な生徒指導はできている。 ①生徒アンケートで、基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを守る態度を育てることに努めているとの回答は86.2%とやや低かった。 ②生徒指導件数は少なかった。(1件) SSWの支援の下、手厚い進路指導ができた。進路行事や就労支援も予定どおり行えた。 ①生徒アンケートで進路について考えるようになったとの回答は58.6%と低かった。 ②難しいケースが多い中、担任、進路担当、SSWの連携によりほとんどの生徒の進路希望に沿う形で実現できた。	B	問題行動の早期発見や未然防止については、教職員の協力のもとできた。しかし、交通事故が起こるなど、交通ルールやマナーを守る態度の育成については、検討の余地がある。 特別な支援が必要な生徒も多数いる中、各種支援の下、進路指導を行えた。進路行事は、年度後半に行われるので、アンケートに反映しづらい。年間での位置づけを検討したい。	・年間計画の中で、交通ルールなど安全教育の学習機会の充実をお願いしたい。 ・問題行動の生徒が少ないのは指導の賜物である。社会でのルールやマナーが守れる大人になるよう指導の継続をお願いしたい。 ・登下校の事故には十分に気を付けて、高校生としての自覚をもってほしい。 ・生徒一人一人の目標、夢、可能性を大切に、その実現に向けた指導をお願いしたい。 ・難しいケースが多い中、先生方の手厚い対応で生徒の希望進路に沿った指導が実現されていて大変喜ばしい。 ・生徒一人一人の特性を生かした進路指導が行えた結果が出ている。
3	【現状】 学校情報を様々な場面を通じて発信している。 【課題】 定時制教育への理解と、社会に開かれた教育課程へ向けた取り組みが必要である。	○積極的な学校情報の発信	①学校説明会、夕方の説明会、保護者向けの公開授業を実施し、定時制について理解を深めてもらう。 ②近隣中学校や地域への学校新聞の発行とホームページを適宜更新し、定時制教育への理解を広める。	①参加者の満足度、参加人数が増加したか(昨年度 学校説明会5組、夕方の説明会1組、公開授業0人)。 ②近隣地域や各中学校へ学校新聞を発行できたか。ホームページの更新を適宜行えたか。	昨年度より、夕方の説明会等の参加者が増加した。コロナ禍での情報発信に課題が残った。 ①学校説明会4組、夕方の説明会10組、公開授業1組が参加した。 ②コロナ禍の中、中学校への配布はできたが、地域への学校新聞配布は、断られた。ホームページの更新は適宜行われた。	A	近隣住民より、コロナ禍なので、学校新聞については、配慮の申出があったため、回覧を取りやめた。次年度以降も、同様と考えられるので、ホームページの充実を図る。	・今後も、中学校への情報提供をお願いしたい。 ・今後の情報発信の仕方について課題は多々あるようだが、コロナ終息後は、今までの回覧をお願いしたい。 ・今の時代に適した方法での、情報発信ができればよいと思います。